

第2回 倉敷市立児島市民病院経営健全化検討委員会 議事録

日 時：平成22年1月19日（火） 14：00～16：00

場 所：児島市民病院第2診療棟2階会議室

委 員：鳥越委員長，三浦副委員長，板野委員，清水委員，高田委員，蓮岡委員，
藤原委員，松浦委員，三村委員，三宅委員，森田委員

【欠席】中島委員

事 務 局：田口局長，江田院長，佐藤参事，佐藤看護部長，安田次長，武部課長主幹，
布施主幹，川崎主事

傍 聴 者：1名

配付資料：第2回倉敷市立児島市民病院経営健全化検討委員会レジュメ
倉敷市立児島市民病院改革プラン（素案）
経営指標等に関する資料

議事内容：

1 開 会

【事務局】 委員12名のうち11名の出席であり，過半数を超えているため，会議が成立していることを報告。

2 議 事

(1) 倉敷市立児島市民病院改革プラン（素案）について

【事務局】 （倉敷市立児島市民病院改革プラン（素案）に沿って説明。）

【委 員】 児島医師会と市民病院との連携と市民病院の役割が書いていない部分があると思うので，少し申し上げたい。

児島市民病院は黒字経営が続き，病床の利用率・外来患者数も多く，研修機関としての機能も有する県下有数の優良公立病院であった。現在の経営悪化は，突然のアクシデントであり，慢性の赤字病院とは性質が違うと考えている。

長年，児島地区の基幹病院として存在しており，住民も医師会も，岡山大学から優秀な医師が責任感を持って派遣されることから，非常に信頼を持っているし，評価も高い。また，署名も集まるなど，住民が強く再建を願っているし，医師会としても再建を願っている。

開放病床も岡山赤十字病院に次いで平成8年から始まり，50名弱の登録医

が市民病院を訪れて診療を行ったり、内視鏡や眼科の手術を行うなど、連携が密にとれている状況である。

また、災害の拠点としての機能もあり、阪神大震災の時に市民病院の医師を派遣したほか、平成15・16年の台風の被害の際にも拠点として災害連絡網を作っている。SARSが流行した頃から、感染症に強い医師が岡山大学から派遣され、この度の新型インフルにもいち早く取り組んでいる。

他にも、3つの看護学校が利用し、看護師養成にも尽くしているほか、公害対策についても児島市民病院が公的病院として関わっている

小児夜間休日急患診療は、平成14年に、全国14箇所のうちの一つとして国から認定され、小児科医3名で365日対応していたが、平成17年に採算性が悪いとの市側の方針で取りやめている。今は医師会員13人ぐらいで行っており、苦戦している状況である。岡山大学は理解があり、これからお願いに行けば、そういうモデルも良いと言われている。

この度は、地域医療のモデルにしたいと意欲のある優秀な院長が派遣され、今は内科医2名で非常に苦戦しているが、臨床研修医制度が変わり、医師数も増やす方向にあるので、辛抱すれば、院長の構想のように、非常にいい病院で医師が来なくなるような病院にしてくれるものと、医師会員も期待している。

市長も理解があるので、この問題は解決するのではないかと考えている。

【委員長】 委員の御意見にあったように、これまで果たしてきた市民病院の役割をもう少し詳しく、まだ書かれていない部分を盛り込んでいただきたい。

公立病院の約8割が赤字の中で、児島市民病院は黒字経営を続けており、現在の赤字は医師数が主な原因ということが分かった。

言葉の問題かもしれないが、中核病院とはどのような位置付けになるのか。また、どこまでのレベル・機能が必要なのか。

【委員】 定義は特に無いと思うが、倉敷中央病院や岡山大学病院などの1,000床規模の病院、500床規模の岡山赤十字病院や200床規模の児島市民病院、それから50床規模の一般病院や開業医の3つの層に分かれる。中核病院とは、その中間の層にあたるものだと理解している。地域で出来る医療は地域で行い、それから上の層の病院が扱うようになる。

【委員長】 おのずと求められる機能が決まってくると思う。上を見ても下を見てもきり

が無いので、目指すところは中核病院ということ念頭において、医師数などを議論していく必要がある。

【委員】 計画期間の22年度から24年度となっているのは、策定する改革プランに基づいて、3か年で計画を実行していくということによいか。

【事務局】 そのとおりです。

【委員】 再建の途上である現状では、3か年の計画期間では達成が難しいのではないかと。そもそも、計画を描くことが困難ではないか。

ある程度経営回復した後の方が、具体的なシナリオが書けると思う。見直しがしにくいタイミングと思う。

【委員長】 これは目標であり、達成のために全力を傾けるという姿勢が必要である。

(2) 児島市民病院の果たすべき役割について

【委員】 児島地区においてお産が出来ないことは、市民にとって非常に不都合だと思う。分べんの再開を目指すところがあるが、医師が本当に招へいできるのか不安がある。助産師外来など、助産師の活用も出来れば良いと思う。

また、時代とともに、心療内科の需要も増えていると思う。急激に悪くなった場合に休息入院できる場所があると、悪化を防ぐことができる。そういった役割を市民病院が担うことが出来れば良いのではないかと。

【委員】 医師の動向を調べると、医師の数が減っているのは外科と産科となっており、他の事は達成可能な気がするが、産科医は達成が難しいと思う。

【委員】 複数体制でないと、分べんが困難であり、医局も人が出せないということだと思ふ。

【委員】 教室自体も1人で出すことは出来ない状況であり、集約化していることから、児島市民病院に優先的に産科医を派遣することは、もう少し先になると思う。3年以内というのは難しいと思う。

【委員長】 もう少し、現実的な表現にしたほうが良いと思う。

例えば、分べんに至るまでの間の充実などを盛り込み、将来的には、複数体制での分べんが望ましいといった表現が現実的ではないか。

【委員】 達成が困難だとしても、市民から多くの署名をいただいております、その声を無視することは出来ない。努力目標など、特別に力を入れることが必要。

【委員】 病院の近くに助産院を作り、助産師が専門に分べんを扱うことが最近増えているが、これは医師不足を補う良い方法だと思う。

【委員長】 地元の要望と現実を踏まえ、事務局は周産期医療の役割を検討してください。

【委員】 外来と入院の役割で、診療所が外来を担い、必要に応じて病院に紹介するといった機能分担が出来れば、医師の忙しさが緩和されるのではないかと。

中核病院に位置づけられる児島市民病院は今後どのように考えるのか。

【事務局】 病病連携，病診連携により機能分担を行っている。

単科とは異なり、複数の診療科目を有する病院の外来は、患者にとっても便利だと考えている。

【委員】 市民教育ということになると思うが、ちょっとした病気では、まず診療所に掛かるといった、役割の違いを広報などでPRすることが、長い目で見ると必要だと考える。

兵庫県の柏原病院では、住民運動が功を奏して、小児科医不在の事態を防いでいる。これは、子どもの保護者が、医者に掛かる際のフローチャートを作り、診療所に掛かるケース、病院に掛かるケースなど、必要に応じて行き先が分かるようにし、適正な対応ができることになったという好例である。

こうした、市民の意識の啓発も必要であると考え。病院だけで何とかしようと思っても限界がある。

【委員長】 こうした取り組みは非常に大切なことだと考える。市民と病院との係わり合いをどうするのか、後の部分で検討することとしたい。

【事務局】 一定レベルの全ての病気の診断を行い、急性期病院や診療所との連携を行う中核病院としての役割を果たすためには、内科医は6名が必要となる。がんで2名、呼吸器が2名、神経疾患で1名、消化器が1名といった内訳となる。加えて、循環器内科がいたらいいと思うが、現在の医師の需給状況では厳しいと思うので、週1回の非常勤で対応する。神経内科は専門的に脳卒中リハビリを行うなど、こちらも非常勤で対応する。

内科がしっかりすると、外科の患者も増えるため、二次救急を見据えると、3名体制が望ましいと考えている。

整形外科は、高齢化に伴いひざが悪い患者も多く、リウマチ疾患も増えていることから、手術が行える2名体制にしたい。

小児科は、夜間救急まで行うためには3名が必要であり、また、総合病院としては、眼科や耳鼻いんこう科、泌尿器科も1名ずつ必要である。

当院規模で放射線科の常勤医がいるのは、非常に強みである。

また、産科は3名来ていただくと夢のような病院になるが、まずは、子どもがちゃんと育てられるような病院を作ることが使命だと考えている。

こうした体制が整えば、機能の棲み分けも可能だと考える。

【委員】 麻酔科も全国的に不足している中、非常勤で手術などを十分に果たしていけるのか。

【事務局】 岡山大学の御協力により、手術を行う日に派遣をいただいている状況である。

手術の増加に伴い、将来的には手術日を決めるなどして、定期的に非常勤医師の派遣をしていただきたいと考えている。麻酔科の常勤医は400床・500床規模の病院であり、児島市民病院規模の病院では、いずれも非常勤で対応している。

【委員】 産科医3名は困難だが、他の招への目標は恐らく可能だと思う。

【委員】 テレビ番組で放映されていたが、困っている病院に対し、地域が立ち上がっていくことが必要だと思う。清掃活動などを通じながら病院を支え、これからも継続して行いたいと考えている。

こうした地域の協力も書き加えてもらいたい。

【委員長】 ボランティアのところでも具体的に議論したい。

【委員】 急性期から慢性期までを担い、総花的、教科書的な内容だと思う。

近隣に児島中央病院があるが、ここの関係はどう考えているのか。また、平成20年度の経営悪化は、病院の構造的なものなのか、それとも何か他の原因があるのか。

【委員】 児島中央病院は、急性期の救急医療を中心に児島地域に貢献している。競合というよりは、共存共栄の関係が成り立っている。

【委員】 経営悪化については、公的病院が抱える人事の問題が原因であり、その際の市の対応が間違っていたと思う。今の院長である限りは大丈夫だと考えている。

【委員】 経営悪化は構造的な問題ではない。

【委員】 再建にはロコミを含めて、PRをすることが必要。

【委員】 高齢化率が急速に上がっていく見込みだが、予定している17診療科目で対

応可能なのか。

【事務局】 委員から御意見をいただいた精神科領域は、がんの終末期医療や高齢化に伴ううつ等の診療にも必要だが、常勤医は難しい状況である。近くに2件心療内科の診療所があるので、外来は連携できると考えている。

あとは、入院期間中の口腔領域を診るために、歯科があったほうが良いと思う。

【委員長】 高齢化が見込まれているので、高齢化に重点を置いて診療科目、あるいは医師の招へいに、意識的に取り組んでもらいたい。

(3) 一般会計負担の考え方について

【委員長】 今の経営状況では建替えは厳しいと思うが、黒字にならないと出来ないというところでよいか。

【事務局】 原則はそうなります。

【委員長】 黒字にならないければ、今の施設のままということか。

【事務局】 医師が揃い、失った信頼を取り戻せば、黒字は十分可能だと考えている。慢性的な赤字病院ではなく、ちゃんとした医療が行える体制を整えば、23年度中には黒字が可能となる。

【委員長】 まずは信頼が見える形で表現していく実績が必要である。

【委員】 繰出基準に基づかない繰出金とは、青天井で措置することか。

【事務局】 今までメンテナンスが出来ていなかった部分があるので、その部分について財政サイドと協議して措置することになる。

【委員】 市が設備投資しなければ、病院は回らない。

【委員】 市の負担について、もっと積極的な表現がほしいと思うが。

【委員】 病院も経営なので、単年度で黒字・赤字という発想でいくと絶対にうまくいかない。医師招へいのためにも、綺麗な設備、医師の腕を発揮するだけの設備に投資することが必要。その投資をしないと、必ず医師は去っていく。

黒字にしないと建替えしないという発想に立っている限り、良くならない。

投資してその分を取り返すという発想を市が持つことが必要である。

【委員長】 投資が無ければリターンは無いわけで、黒字から投資の好循環の論理をしつかりと盛り込んでいただきたい。同時に、そのためにはどういう経営形態が良

いのかなど、絡めて考えることが必要だと考える。黒字にするためには投資も必要と書き加えるべき。

【委員】 人さえ投入すれば必ず黒字になる。それを維持するためには建替えが必要である。投資は必ず考えていただきたい。

(4) パブリックコメントについて

【事務局】 現在の素案について、1月下旬から2月中旬にかけてパブリックコメントを実施したいと考えており、現在、準備を進めている。PRとしては、ホームページに掲載することを予定としている。

【委員長】 ある程度、この検討委員会が方向付けしたものでないと、パブリックコメントの意味が無いのではないか。

【事務局】 本日いただいた意見を盛り込んだ素案を、次回の検討委員会に提示させていただく。その後にパブリックコメントを実施するように変更する。

【委員】 市として投資をすべきかどうか、あるいは経営形態をどうするのか、そういったことを一つひとつ詰めて、委員の中でコンセンサスが得られていないと、市民に誤解を与える恐れがある。パブリックコメントの時期は慎重に考えていただきたい。

【委員長】 パブリックコメントの実施時期についても再検討する。

(5) その他

【委員】 改革プランは倉敷市が出すものだと思うが、病院の考えと市の考えが違う部分があると思う。主語があいまいな部分があるので、再度見直しをしたほうが良い。

※次回の検討委員会の開催日を調整し、2月4日(木)14時から児島市民病院第2診療棟2階会議室で開催することに決定。

3 閉 会

倉敷市立児島市民病院経営健全化検討委員会 委員名簿

委員長	鳥越良光	岡山商科大学大学院商学研究科 教授
副委員長	三浦洋	倉敷市連合医師会 会長
委員	板野敏久	中小企業診断士
委員	清水昌美	川崎医療福祉大学医療福祉経営学科 副学科長
委員	高田幸雄	児島商工会議所 会頭
委員	中島豊爾	全国自治体病院協議会 副会長
委員	蓮岡興四郎	児島地区自治会連合会 会長
委員	藤原恭子	岡山県看護協会 会長
委員	松浦謙二	保健福祉委員会 委員長
委員	三村英世	行財政改革特別委員会 委員長
委員	三宅八郎	児島医師会 会長
委員	森田潔	岡山大学病院 院長

(委員は五十音順・敬称略)